

# 学修（習）支援における学生スタッフ育成のための教材研究

石毛 弓<sup>A</sup>

## 1. はじめに

現在、大学等の高等教育機関では授業内はもとより授業外での学生への支援や学修環境の整備が求められている<sup>1)</sup>。こういった傾向のなか、学生の自主学習の促進を目的とした部署や設備、プログラムを設置する大学が増加している。本稿では、こういった活動を行う場を総括して学習支援センターと呼ぶことにする。

学習支援センターの形態や運用は、教育機関のニーズによって多様である。しかし自身が携わるものとは異なるかたちであったとしても、他での取り組みや課題を知り、意見を交換することは、今後の高等教育機関と学修（習）支援のありかたを考えるうえで有益だろう。以上の理由から、本発表ではまず話題提供として、筆者が所属する学習支援センターの概要、およびスタッフトレーニングと今後の課題について解説する。その後、参加者との質疑応答や、参加者自身が関わっている学修（習）支援についての紹介等を募りたい。なお本タイトルは「学修（習）支援における学生スタッフ育成のための教材研究」だが、意見交換の際にはチューター・トレーニングにかかわらず広く学修（習）支援に関わる内容をあつかうことを予定している。一定の成果や答えを出すための議論ではなく、問題を共有し情報を出し合うことを目的とした場を提供することが、今回の発表の目的となる。

## 2. 学習支援センターの基本情報

筆者が勤務する大手前大学の学習支援センターの概要を以下に示す（表1）。予約制ではなく、学生が開室時間中は自由に入出入りし、必要に応じて質問をするドロップ・イン方式をとっている。また本学のキャンパスだが、「いたみ稲野キャンパス」は初年次生および短大生、「さくら夙川キャンパス」は2年次生以上が利用するため、ごく少数の例外はあるが利用者の区分も

おおむねそれに準じたものになる。学生の利用内容は、いたみ稲野キャンパスは初年次必修科目の主に情報系の授業外課題に関する質問が、さくら夙川キャンパスはレポートや個別授業に関する質問が大半を占める。「答えを教える」のではなく、「自律学習につながるアドバイスをする」ことを基本方針に掲げている。

なおチューターは修士課程修了以上の者を雇用し、基本的には大学院生や非常勤講師で構成されている（本学の大学院生数は少数なため、チューターの大学院生はすべて他学の学生である）。ピアサポーター（以下、PS）は、本学の2年次生以上の学生で構成されている<sup>2)</sup>。

表1. 学習支援センター概要（2018年度秋学期）

	いたみ稲野キャンパス	さくら夙川キャンパス
場所	20名規模の教室×2/ グループ学習用スペース	15名規模の図書館内の 部屋/図書館巡視
時間	10:00～18:00 (授業期間中のみ)	10:00～18:00 (授業期間中のみ)
人員	チューター2名+PS1名程度	チューター2名+PS1名程度
利用者数	約22名/1日平均 ※のべ人数	約10名/1日平均 ※のべ人数
スタッフ人数	運営スタッフ（常勤・兼任）：5名 チューター：11名 PS：7名（2～4年次生）	

## 3. PS トレーニング

スタッフ研修は2種類あり、一つはチューター・PSともに出席する学期開始前の「事前研修」および学期終了後の「ふりかえり会」で、どちらも半日程度を要する。これに加えてPSのみ、学期中に職務に関するトレーニングを実施している。

PS トレーニングは、週に1回、90分で行う。トレーニングでは決められたテキスト<sup>3)</sup>を用い、担当者が

A: 大手前大学メディア芸術学部

割り振られた章を要約して、他の PS にレジюмеとともに解説・実践する。1 回の担当者は 1 人だが、ペアを組んで、事前にペアの相手にレジюмеをみせて意見交換を行っている。

ワークショップの時間には、それまでの研修で不足していると思われた部分や、PS が修得したいと望む能力などを身につけることができる内容を実施する。また「PS 企画」として、PS が自身の能力を活かすかたちでなんらかの企画を計画し、実施することが推奨されている。ワークショップでその内容をあつかうこともある。筆者は 2018 年度にトレーナーを務めた。

この PS トレーニングについて、利点、困難な点、反省点を下記で述べる。

#### 【利点】

- チュータリングおよび学習支援センター運営に必要なスキルを身につけることができる
- 大学および学習支援センターの方針を共有することができる
- 裏付けのある自信につながる
- PS 業務での疑問を解消できる
- PS のチームビルディングを助ける
- 他の PS と情報共有・意見交換ができる

#### 【困難な点】

- PS の人数が少ないため先輩から後輩へのスキルや知識の継承が難しい
- 研修時間の確保（トレーナーと PS のスケジュール調整）が難しい

#### 【改善点】

- PS 主体で進行するかたちになっているが、PS リーダーを決めるなどさらに自主的な活動をうながすことができたと考えられる
- PS 企画を実施できた者はいなかった（実施不可能にみえる計画を立てた学生に対しては、現状と目標のギャップを自覚し内容を再考することもトレーニングの一環であるというスタンスで臨んだ。しかし、成功体験が必要であるという意見もあった）
- レジюмеを作成する能力が不足している PS に対する指導が不十分だった。そのため、向上があまりみられないケースがあった
- 「週 1 回、90 分」のスタイルが最適かどうかを見直す必要がある

- 欠席者への対応を充実させる

表 2. PS トレーニング例（2018 年度秋学期）

月日	回数	担当箇所	担当者
9/27	1	Ch01	石毛
10/4	2	Ch13,14	N、NM
10/11	3	Ch11,12	SK、SG
10/18	4	Ch03,04	NN、MZ
10/25	5	Ch15	AM
11/1	6	ワークショップ	石毛
11/15	7	Ch05	NM、AM
11/22	8	ワークショップ	石毛
11/29	9	ワークショップ	S 教員
12/6	10	Ch07	SG、N
12/13	11	Ch08	MZ、SK
12/20	12	Ch09	NM、SK
1/10	13	Ch10	SG、MZ
1/17	14	ワークショップ	N、NN
1/24	15	ふりかえり	AM

※N や AZ は PS 名の略

#### 4. 本発表でのねらいの確認

雇用した PS にトレーニングを実施することは、第 3 章「利点」で示したように学習支援センターにとっても PS にとっても有用だろう。その際に課題となるのはトレーナー、トレーニング内容、トレーニング時間ではないだろうか。本学では現在はこの 3 点をそろえたかたちで実施できているが、「なにを学ぶべきか（内容）」の指針や必要な資料があれば、他の点をクリアできるのではないかと考える。そのためにも、今回の発表で参加者同士での意見交換が活発に行われ、各自が参考になる情報を得ることを期待する。

#### 引用・参考文献

- 1) 文部科学省. 中長期的な大学教育の在り方に関する第二次報告. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/attach/1297027.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/attach/1297027.htm) (最終閲覧日: 2019 年 3 月 10 日) .
- 2) 石毛弓. 大手前大学学習支援センターの総括(2007 年度~2012 年度). 大手前大学 CELL 教育論集 3, , 2012, 7-16.
- 3) 谷川裕稔, 石毛弓他. ピアチューター・トレーニング. ナカニシヤ出版. 2014.